

一貫した支援を受けられる 発達支援システムの導入を

改革フォーラム 佐竹 直重

問 滋賀県湖南市では、先駆的な障害者福祉施策である発達支援システムを構築している。これは、発達に不安のある子どもなど、支援が必要の方に乳幼児期から就労期まで保健や福祉、教育などの各機関による横の支援と個別指導計画による縦の支援を連携させて提供するものである。情報共有による一貫した支援計画は本人のみならず保護者の安心感にもなるが、本市でも導入しては。また、本市でもつなぐ育成会は、就労期以降も情報が継続できるように健康生活支援ノートを作成している。市でさらに情報を加えたものを作成し、配付しないか。

答 本市では、乳幼児期は定期的な経過観察や助言を行い、支援が必要であれば児童相談所や木園へつなぐ体制を整えている。さらに、子どもの成長に合わせて、学齢期は教育指導課、その後は青少年課や障がい福祉課が支援を行い関係機関と連携を図っている。就労後も支援を継続するなど、ライフステージに応じた切れ目のない支援が重要であると考えており、連携を強化しつつ、発達支援システム構築の必要性も検討していきたい。また、健康生活支援ノートは、一貫した支援のためのツールの一つと認識しており、今後、研究していきたい。(ほかに「綾瀬市いじめ防止基本方針について」を質問)

台風18号による被害状況と 今後の水害対策方針を問う

かわせみ 比留川政彦

問 地球温暖化に伴う、集中豪雨などにより日本各地で被害が発生している。10月の台風18号では、本市でも連続雨量352.5ミリ、最大時間雨量59.5ミリを記録し、河川溢水による耕作地の冠水、道路冠水による床上・床下浸水などが多く発生したが、被害の状況はどうか。溢水頻度の高い

準用河川比留川や道路排水などは、今後、施設の更新などの災害対策が必要と考えるが、取り組みの状況は。また、吉岡では崖崩れが発生し、マンションに土砂などが流入した。現在も現場はそのままの状態になっているようだが、市は今後どう対応していくのか。
答 台風18号では、床上・床下浸水が45件、崖崩れが3カ所などの被害があった。今後



市公認キャラクター「ブタッコリ」

の対策に向けた取り組みとして、比留川は、昨年度の調査結果を踏まえ、遊水池の場所や規模、構造、護岸改修などの基本計画を策定している。道路の雨水排水施設は、側溝の整備により通常の降雨排水能力は備えていると考えている。落ち葉などが冠水原因と考えられるため、日常の管理、清掃を徹底していく。また、崖崩れに伴う崩壊対策工事は、地権者施工が原則となっているが、県施工が可能となる急傾斜地崩壊危険区域の指定に向け、県との協議を進めている。(ほかに「空き家対策について」を質問)



全国から41作品の応募が寄せられた、ご当地ナンバープレート(原動機付き自転車用)のデザインが決定しました

人口減少や受益者負担を考 慮し市有財産の有効活用を

新政会 増田淳一郎

問 人口減少時代を迎え、近い将来、空き教室の発生も予想される。綾北小学校は、利便性の高い場所にあるが、東館の一部を公設放課後児童クラブの開設場所とすることや自治会に開放することを考えないか。また、市は、地球温暖化防止対策の一環として、電気自動車の普及に向け急速充

電器を市役所に設置した。綾瀬スポーツ公園の駐車場利用者は、野球、サッカー、テニス競技を行う特定の市民に限られている。本市は、受益と負担の適正化を図るため、各種公共施設を有料化してきた。両施設とも早期に有料化すべきと考えるが、市の方針は。
答 公設放課後児童クラブは、公共施設に開設することが望ましいと考えているが、

今後5カ年の整備計画では、綾北小学校区に開設予定はない。東館にはパソコン教室などがあり、管理区分の分離が困難なため、一般開放は行っていないが、学校施設の有効活用は重要課題と認識しており、今後、公共施設適正配置計画の中で検討していきたい。また、急速充電器は、今年4月から県が有料化したこともあり、現在、検討を行っている。綾瀬スポーツ公園の駐車場は、施設利用者以外の一般利用者もいることから、現時点での有料化は考えていない。(ほかに「児童・生徒に対する教育施策について」を質問)

子どもの安全・安心を守る ため防犯対策を進めないか

公明党 松澤 堅一

問 全国的に子どもが巻き込まれる凶悪で痛ましい事件が発生しており、小学校などの施設や通学路、地域社会での安全確保のあり方が改めて問われている。本市でも多くの不審者発生事案があると聞か、発生状況と分析により解決した事案はあるか。また、冬季、中学生の下课時間帯は真暗である。通学路にある防犯灯の改善や新設、状況によっては防犯カメラ設置などの対策も必要ではないか。小学生在が登下校時に危険を回避するために貸与している防犯ブザーは、不具合も多いと聞き心配であるが、本市ではどのように対応しているか。

答 本市の不審者情報は、平成25年度は31件、26年度は11月末で48件あるが、分析は行っておらず、検挙や解決に結びついたという話も聞いていない。また、既存の防犯灯は、27年度にLEDに改修するための手続きを開始した。一方、新設が必要な場合は、設置者の防犯協会と協議が必要となるため調整していきたい。防犯カメラは一定の抑止効果があると考えているが、市内の犯罪発生状況を踏まえ必要性を見極めていく。防犯ブザーは、有用性を保護者に改めて伝えるとともに、学校での定期的な点検を促していく。(ほかに「空き家対策の今後について」を質問)



12月27日「年末野菜直売会」が開催され、市特産のブロッコリーなどが販売されました。八文化会館駐車場にて。